

～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

東京教師養成塾通信

発行日 平成28年10月16日
<第6号>
発行元 東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電話 03-5802-0318

●第13回講座「授業づくりの基礎⑥～外国語活動の指導力の向上・模擬授業を通して～」

平成28年9月17日（土）に、外国語活動の目標や内容、指導のポイントを理解することをねらいに、第13回講座を行いました。

講義では、文部科学省初等中等教育局教育課程課・国際教育課 直山木綿子教科調査官をお招きして、「外国語活動における教師のはたらきかけ」をテーマに小学校における外国語活動で教師が心掛けることや中学校英語科との違い等についてお話をいただきました。講義の後半では、文部科学省著作物で外国語活動の教材である”Hi, friends!”を活用した模擬授業が行われました。模擬授業の始めに、授業の構成をするときの考え方について、説明がありました。その後、ジェスチャーゲームやポインティングゲームのアクティビティが行われ、児童が主体的に活動するための工夫についてお話がありました。直山教科調査官の言葉かけや指示の工夫、教材提示の方法等、多くのことを学ぶために夢中でメモをとる塾生の姿が見られました。



—直山教科調査官
による講義—

最後に、直山教科調査官から塾生に「教壇の上は厳しい。仲間を大切にしてほしい。」との激励の言葉をいただきました。

班別協議では、講義で学んだことを踏まえて、外国語活動を充実させるために担任として留意することについて話し合いました。塾生からは、「担任とALTが協力して授業づくりをすることを心掛けたい。」「日本語と英語を同じテンションで話せるように、アクセントや抑揚を工夫することが大切。」など、特別教育実習で経験した外国語活動の授業を踏まえて、発言する塾生がいました。

次期学習指導要領では、小学校5、6年生で外国語（英語）が教科になります。塾生の皆さんには、講座で学んだことを授業で生かし、外国語活動の更なる充実を期待します。



—班別協議の様子—

【塾生の感想より】

- ・講師の先生の話し方やジェスチャー、表情等、授業での教師のあるべき姿を見ることができ、大変良い学びとなった。外国語活動とは何を、どのように学ぶのかを体験を通して理解することで、外国語活動のイメージが鮮明になった。
- ・子供が言いたくなる、やりたくなる活動をねらいを明確にして行っていくことの大切さを学んだ。また、子供が夢中になって発する言葉に英語で答えてあげることが英語に対する児童の意欲を高めることにつながることを学んだ。

企業等における体験活動を実施しました

企業等での就業体験を通して、社会人としての責任ある態度を身に付けることをねらいに、6月上旬から9月上旬にかけて、5日間の企業等における体験活動を実施しました。今年度は、25の企業、事業所に御協力をいただきました。

塾生は、各企業等で企業理念やマナーに関する研修、店舗での接客、納品作業、発注業務等の様々な体験を通じて、社会人としての責任や相手の立場に寄り添うことの大切さ等を学びました。体験活動のまとめとして、塾生は壁新聞を作成し、研修センター7階に掲示しました。

【塾生の感想より】

- ・小売業者の方がお客様を一番に考えているのと同じように、誰かを喜ばせたり、楽しませたりすることが自分の仕事に対するやりがいにつながると感じた。（小売業で体験活動を行った塾生）
- ・社長の講話で、今後、この牧場をどのようにしていきたいかを常に従業員に話していることを伺った。私も学級を統率する担任として、学級の児童に対し、今後この学級をどうしていきたいかをしっかりと伝えていきたい。（牧場で体験活動を行った塾生）



◆ 教材研究・教材解釈の意義 ◆

東京教師養成塾教授 時田 明子

「教材研究は授業成否の鍵」とよく言われます。どんなに巧みな指導技術があっても、目標に即した教材が選択されていなかったり、その教材を活用した適切な学習内容や学習活動が設定されていなかったりすれば授業は成立しないからです。「もっと教材研究に励むように」と指導されるのは、まさに教材の取り扱い如何によって授業の質が決まってしまうことを物語っています。ここでは、教材研究の主な手順を記します。

1 学習指導要領の目標と内容を読み込む。

言うまでもなく、授業の目的は、学習した結果、児童・生徒が目標に到達できることです。そこで、学習指導要領を何回も読み込み、目標と内容をしっかりと把握することが求められます。経験の浅い教師の場合、学習指導要領の読み込みが不足し、すぐに本時の学習活動の工夫を考え始めることがあり、授業の視点が曖昧になることがあります。

2 複数の教材を比較し、目標と内容を具体的に押さえる。

教科の場合、教科書に教材が示されています。同じ目標であっても教科書によって教材は様々です。「山頂は一つだけど、山への上り口は複数ある」と言われる所以です。各区市町村で使用される教科書は指定されていますが、複数の教科書の教材の内容とその扱い方を比較し、自校の教科書教材を改めて検討すると共通点に気がきます。そこが授業の押さえどころです。このようにしっかりと教材を分析すると教材の見方が深くなります。

3 教材を解釈し、学習内容、学習活動、学習方法を考える。

教材を選定したら、その教材を活用した学習内容、学習活動、学習方法を考えていきます。その際、教材解釈力が求められます。この教材解釈力が弱いと児童・生徒の考えを深める発問ができません。指導者は常に、この学習で児童・生徒に何を理解させたいのか、何を考えさせるのか、そのために何を提示してどのような発問をするのか、という問題意識や疑問をもって教材研究をする必要があります。

教材研究は奥の深い取組です。より深い教材研究をするためには、指導者自身の教材に関わる知識、解釈力が大切です。塾生には、研究授業を通して教材研究の大切さを何回も語り、指導を継続しているところです。

◆ 学級経営の充実に向けて～集団の把握、個への対応、規範づくり～ ◆

東京教師養成塾教授 濱 勝

教師の仕事の中核は授業であることは言うまでもありません。同時に、児童・生徒が多く時間を過ごす、学級という集団での生活を充実したものにしていくことも大切な仕事です。学級担任がどんな学級をつくっていくかという「学級経営」は、児童・生徒の人間関係や学習意欲に大きく影響してきます。

学級をまとまりと活力のある集団に育てていくためには、次のようなことが大切です。

1 信頼関係をつくる

学級という集団を支えている一人一人の児童・生徒同士が、好ましい人間関係を築くことができている学級は、つながりが強く、支持的風土が育っています。その児童・生徒相互を結び付けるのが教師の役目です。休み時間に一緒に遊ぶ、毎日全員の児童・生徒と話をするといった実践の積み重ねによって児童・生徒理解が深まります。また、一人一人のよさや違いを認め合い、可能性を引き出すことによって、自己有用感や自分の学級への所属感が高まります。

2 集団を把握する

集団を把握したり動かししたりする力がないと、学級経営は成り立ちません。一人一人の児童・生徒理解を深めるだけでなく、学級の現状や課題を把握し、学級全体で同じ目標をもち、協力して目標の実現に向けて努力していくような活動が必要です。特別活動の学級活動や学校行事などの望ましい集団活動に積極的に取り組ませることで、自主的、実践的な態度を養い、学級のまとまりや、所属感を養うことができます。

3 規範意識を高める

「よい学級」を見ると、学級のルールが徹底されていることが分かります。ルールが徹底されると心地よい生活リズムが生まれます。心地よい生活リズムは人の感覚を浄化させます。押し付けではなく、児童・生徒が自らを律していけるようなルールづくりができる学級が理想です。そのためには、「一貫した指導 あきらめない指導 愛情をもった指導 時には毅然とした指導」等が必要です。

「師弟同行」という言葉があるように、教師が率先して約束を守る、という態度が必要です。東京教師養成塾では、社会人としての基本的なマナーを身に付けた塾生を育てるために、講座等での集まりの際には、ルール、マナーの指導にも力を入れています。

伸長期を迎えた東京教師養成塾では、塾生の授業力の向上とともに、学級経営の力を付けていくことを共通の課題としています。指定校での指導教員の学級経営の様子や「一日担任」などの経験を通して、生活指導や学級経営の実際について学んでいけるよう指導していきます。